ソフトウェア・シンポジウム2009

開催ご案内

会期：

2009 年 6 月 17 日（水）～19 日（金）

会場：

かでる２・７　北海道立道民活動センター
北海道札幌市 http://www.kaderu27.or.jp/

主催：

ソフトウェア技術者協会

協賛（予定を含む）：

日本ソフトウェア科学会、情報処理学会、電子情報通信学会（ソフトウェアサイエンス研究会、知能ソフトウェア工学研究会）、情報サービス産業協会、その他

開催概要

ソフトウェア・シンポジウムは、ソフトウェア技術に関わるさまざまな人びと(技術者，研究者，教育者，学生 etc) が、自らの経験にもとづいて得られた技術や経験あるいは知識を交流する貴重な場として、これまで四半世紀以上にわたって開催されてきました。

30回目の節目を迎える今年のシンポジウムは、6月17日(水)～19日(金)の3日間、北海道札幌市で開催します。

このシンポジウムは、3 年前から、あらかじめ予定された講演や論文発表を聴くというのではなく、参加者全員が参加するかたちの Working Group 討論を中心にプログラムを組んでおり、みなさんから好評をいただいています。今年は、次の8つの討論テーマが設定されました：

- WG1：「人間中心的なソフトウェア開発」
- WG2：「系列製品開発のための再利用」
- WG3：「エンジニアによるエンジニアリング教育について考える」
- WG4：「テスト」
- WG5：「モデリングの方法論とツール」
- WG6：「形式手法適用」
- WG7：「ユーザ企業の IT 部門の戦略について考える」
- WG8：「FLOSS」

シンポジウムに参加を希望される方は、それぞれの WG の概要説明をお読みになったうえで、自分がどこに参加するかを決めていただきます。参加希望の WG 指定なしの申し込みは受け付けられません。今年の最大の特徴は、オープニングとクロージングのキーノートを含め、18セッションもの招待講演を用意していることです。初日6月17日は無料講演日として、オープニングキーノート、一般招待講演16セッションすべてを無料で一般に公開します。もっともホットなテーマを講演してくださる方々をずらりと揃えた非常に豪華なラインナップとなっております。なお、すべての WG には、それぞれ事前討論を行うための Mailing List や

SNS が設けられており、シンポジウム参加申込みの受付と同時に、それぞれの WG の担当 PC から、その ML や SNS への招待 mail が送られます。それを利用して、シンポジウムでの討論が始まる前に、グループのメンバーとの間の予備的な意見交換をしておいてください。

オープニング・キーノート

オープニング・キーノート (6/17 水曜日 13:30-14:45)

講演者:

中島 秀之(公立はこだて未来大学学長)

講演タイトル:

新しい社会を創る情報技術 ～ サービス工学の方法論を中心

概要:

ソフトウェア科学という分野は、自然科学と異なり、新しいものを構築する学問体系である。したがって、自然科学の分析的方法論とは異なる体系を必要としている。その体系として構成のループを提示し、その一例として新しいシステムを創るためのサービス工学の考え方を提示する。応用例として、現在の社会システムを情報化するのではなく、ITによって初めて可能となるより良い社会のイメージを提示する。

クロージング・キーノート

クロージング・キーノート (6/19 金曜日 13:00-14:30)

講演者:

林　香里 (東京大学大学院情報学環)

講演タイトル:

「自営労働」概念と日本における専門職（プロフェッショナル）定着の困難

概要:

会社中心で労働のイメージが発達してきた日本では、「専門職（プロフェッショナル）」という概念はなかなか根付かない。しかしながら、今日、産業構造の変化とともに、会社中心の集団的労働から、専門知に基づく個人の自立した労働へと働き方も変化している。とりわけ、いわゆる知識／文化産業において「フリーランス」たちが担う役割は、年々重要度を増している。ドイツの労働社会学では、こうしたタイプの働き方を「自営労働（Arbeitskraftunternehmer, Self-Entrepreneurial Work Force）」と名付け、新しい時代の新しい働き方として、社会的に認知し、制度化していこうとする動きがある。講演では、この「自営労働」という考え方について紹介するとともに、それを参照点にして、日本における文化産業の「フリーランス」たちの処遇の改善の可能性と限界を考えてみたい。

16セッションの一般招待講演の内容に関しては下記 *URL*「招待講演一覧 」をごらんください。